

## 平成 29 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 教養教育機構  
氏 名 瀬戸美奈子

活動テーマ	鈴鹿市における学校・教育委員会・大学が連携した不登校対策の推進
実施期間	平成 29 年 6 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 30 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>鈴鹿市内の中学校において不登校対策を主に担っている教員（教育相談担当教員、適応指導教室担当者など）に対し、不登校支援の有り方や学校の組織作りについての研修会を開催した。モデル校 2 校を設定し、小中連携を促進するために、合同での授業参観や事例検討会を実施した。また鈴鹿市の不登校支援の課題について検討した結果、不登校の初期対応について見直し、初期対応をまとめたリーフレットを作成し、市内全小中学校に配布した。さらに初期対応マニュアルを市内全小中学校教員に配布し、活用を促した。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>各学校の不登校支援担当者を集め、定期的にミーティングを開催し、各学校の状況を情報交換することによって、それぞれの学校課題の見直しや、不登校対応のための組織改善に貢献できた。また小中合同での授業参観や事例検討会は好評であったため、次年度以降、実施を拡大することとした。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況</p> <p>不登校対応の現状と課題を分析するための基礎データ提供、および各学校との連絡調整、リーフレットの原案作成は共同実施者である教育委員会指導主事が担当した。小中合同の授業参観、事例検討会の結果などをもとに、今後の鈴鹿市の施策の方向について教育委員会と報告者で協議し、改善をはかっていった。年度末には一年間の活動の総括を行い、今後さらに教育委員会と連携しながら不登校対策を推進していくことを確認した。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり</p> <p>不登校対策担当者への聞き取りなどから、不登校の予防には①発達障害についての理解、②支援ファイルの作成、③若手教員への支援が必要であることがうかがってきた。そこで報告者が担当する教職科目の授業で、学校現場での課題を取り上げ、発達障害の理解と支援に関する専門性、不登校の事例検討など実践的な力の養成に向けて、アクティブラーニングを取り入れた授業実践を展開した。こうした取組が新任教員の資質向上の基盤となると考えられる。</p>

(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

鈴鹿市中学校不登校対策担当者ミーティング 4回  
実施場所：鈴鹿市適応指導教室、鈴鹿市立神戸中学校  
参加人数：各回 10名

鈴鹿市小中連携授業観察および事例検討会 2回  
実施場所：鈴鹿市立旭が丘小学校、鈴鹿市立神戸小学校  
参加人数：各回 10名

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

一年目は鈴鹿市の不登校対応の現状と課題を、学校現場の教員にインタビュー調査を行い、現場の声をもとに分析することによって、地域の課題やニーズを明らかにすることができた。二年目は具体的に明らかになった課題をもとに、不登校の初期対応の徹底と、小中学校の有機的な連携が新たな不登校の防止につながるという基本方針を定め、実践に取り組んだ。小中学校が合同で小学校6年生の授業参観、事例検討会を行うという取組は、小学校、中学校いずれの教員にも好評であり、新入生に対する中学校でのサポート体制の工夫を行うことができた。これについては今後も継続的に展開していく予定である。また作成したリーフレットは全教員に配布することによって、研究や実践の知見を市内小中学校に還元することができたと考えられる。